

近世東アジアにおける統治とその拠点

杉山 清彦(東京大学教養学部教授・放送大学客員教授)

1. 世界の中の近世日本

◇彦根城築城の世界史的背景——アジアの“戦国時代”から「武装した平和」へ

《1600 年前後の世界》好況と競争の「大航海時代」から近世国家の「すみわけ」へ

13～14 世紀：モンゴル時代＝モンゴル帝国によるユーラシアの一体化の時代

14～15 世紀：モンゴル帝国の解体と秩序の再編 元→明、高麗→朝鮮、鎌倉→室町

明(1368-1644)＝強権による秩序再建 民間の海上貿易・交通の禁止(海禁)

→16 世紀＝治安の安定と商業の回復で、貿易の欲求が高まってくる：実力行使の通商＝倭寇

大航海時代＝西欧のアメリカ進出とアジア貿易参入 × 征服

◎16 世紀末～17 世紀半ば：各国の政治秩序と国際関係の一大再編期

：領民支配と対外貿易を基盤とし、軍事力によって擡頭した新興商業＝軍事勢力が形成・競合

〈中国〉明：内乱(李自成の乱) ←→満洲：女真人(満洲人) →清：1616 建国→1644 明清交替

〈日本〉天下人＝織田信長・豊臣秀吉・徳川家康 →江戸幕府：1603 開府；1615 覇権

→統一政権が諸大名を強力に統制する全国支配：拠点としての近世城郭＝彦根城

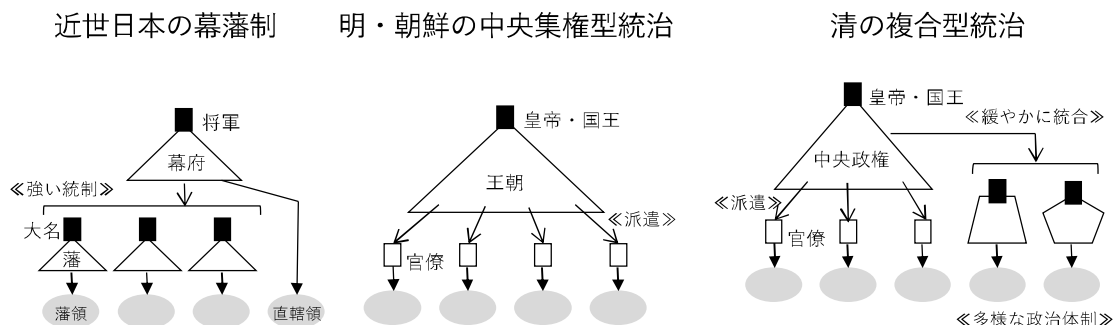
⇒東アジアにおける強力な近世国家の「すみわけ」と、外部勢力の排除・統制 ……共通性

←各国の内実はそれぞれ：独自の秩序を形成した日本＝江戸時代の幕藩制 ……独創性

2. 東アジア王権の統治のしくみ

◎東アジア＝中国・朝鮮は君主を頂点とする文官官僚制。地方支配も行政区・官僚統治。

明に代った清は複合的だが、中国内地については文官統治・州県制。



◇中華王朝的体制：君臣秩序と官僚制 ←→主従関係と領主制(日・欧)

〈周～春秋戦国〉 都市国家(邑)：都市それぞれが国・都 /封建制と領主の群雄割拠

〈秦・漢〉 都城と県城 : 邑が行政都市に移行 /郡県制による行政区統治

〈魏・晋～隋・唐〉 ” 貴族中心/領主の消滅

〈宋～〉 ” +市鎮(商業都市) 科挙の主流化/身分制の消滅

・君主(皇帝・国王)を頂点とする一君万民の理念に基づく支配体制が時代を下るごとに強化。

・担い手としての文官官僚制の発達：科挙(高級文官選抜試験)による人材登用の主流化。

・君主・中央政府が統治を掌握：宰相は姿を消し、補佐集団が君主を補助＝内閣・軍機処

；実務官庁(六部など)は皇帝直隸、長官は複数制・合議制

◇地方統治：郡県制型統治 (←→封建制)

・全国が各級の行政区に組織され、派遣官僚が一定期間在任：「刑名錢穀(司法・徴税)」

・明清期：省一府一県 ……県が最小の行政単位 全国で 1300 程度

・長官は総督(複数省)・巡撫・布政使・按察使(各省)、知府、知県だが、上司部下の関係にない

・癒着防止のため、数年で任地を替える遷転制(流官)、出身地に赴任しない回避制(本籍回避)

の原則が取られる ←→業務以外についての放任主義や不正蓄財につながる

⇒行政官の執務地が統治拠点：領主の居館・居城でない；軍隊や教会に規定されない

3. 東アジアにおける政治の拠点

◇統治拠点：都城と県城(・府城・省城)

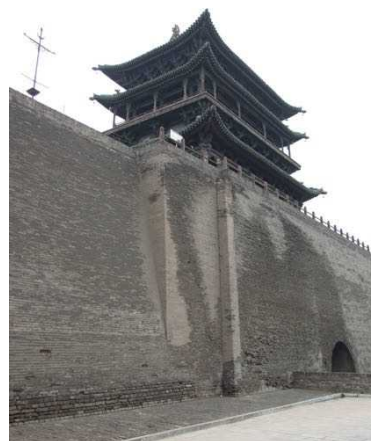
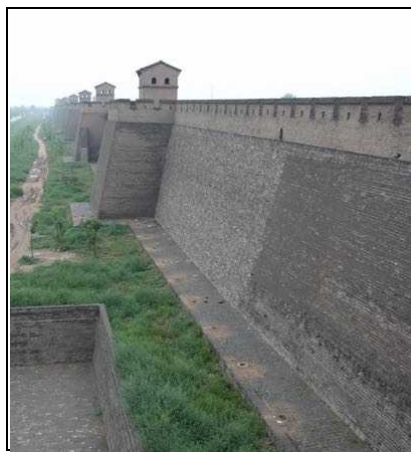
・「城」の原義は城壁(wall)、圍廓、圍廓都市(walled city) = 戦闘要塞(fort, castle) ではない

Cf. 「万里の長城 the Great Wall」、現代語「城市」

・行政区の中心となる行政都市：古代の邑に淵源。秦漢以来、中央の出先機関。

・城壁があるので防禦機能はあるが、一義的には戦闘施設でなく統治拠点・住民居住地。

・地方軍も基本的に「城」におかれ、戦闘要塞は辺境地域に集中。



都市城壁と城門・門楼 (山西・平遥県城)

〈構成〉

- ・二重または一重の城壁による囲廓都市：社会上・治安面で内外の区分が重要＝城壁・城門
- ・南北軸とグリッドプラン：囲廓都市>方格状町割(坊市制)>中庭式住居(四合院)
- ・囲郭型建築の入れ子構造 ex.紫禁城<皇城<内城<外城(未成)
- ・視覚的な高層建築をもたない：門楼・鼓楼はあるが官署は平屋で、遠方からは視認できない。
- ・象徴的な宗教建築をもたない：孔子廟はあるが、西洋の教会に比すべきものはない。

◎都城＝北京・紫禁城など：唯一至高の中枢、戦闘要塞でなく宮殿(palace)

◎県城＝山西・平遥など：中央の出先機関である行政官庁。建築様式はマニュアル化したもの。

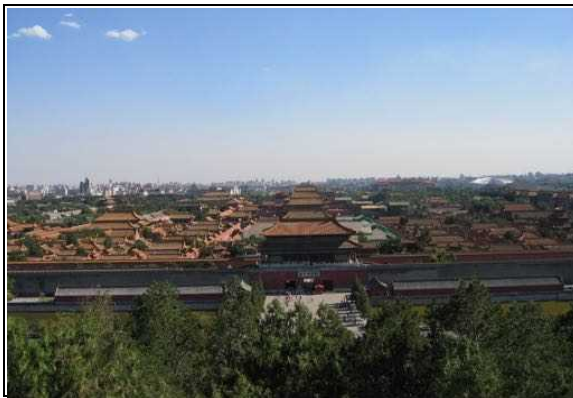
- ・南＝公的空間と北＝私的空間で構成、南北に直列

：「前朝後寝」＝南半が外朝、北半が内廷 * 主要官庁は皇城外の天安門前

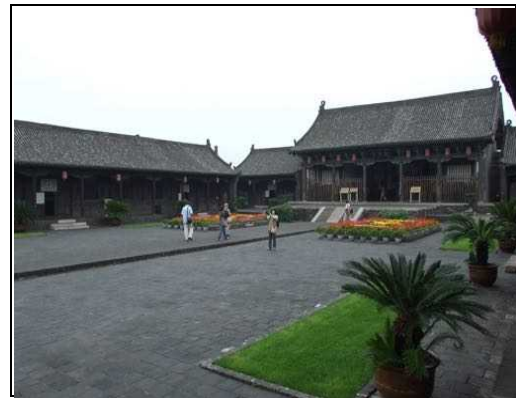
：中庭式住居＝四合院：「前堂後室」＝南を公的、北を私的空間とし、建物で中庭を囲む

◎朝鮮：都の漢陽(ソウル)はじめ、中国同様の城郭都市。派遣官僚が行政区を統治。

- ・漢陽は王宮・官署、戦時用に郊外に北漢山城・南漢山城・・・朝鮮戦役時の要塞「倭城」は特殊



紫禁城（北から南に中軸線上を望む）

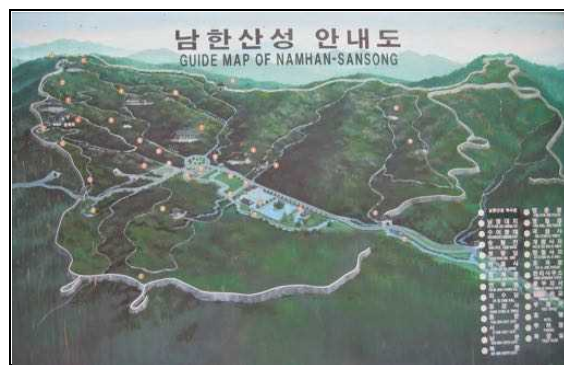


地方の県衙門（平遥県城、執務政庁）



平遥県衙門の平面図

（中央が政庁、北が官舎区画で、構成は四合院と同じ）



ソウル・南漢山城（現地説明板より）

4. 清の複合型統治とその拠点

◇清=ツングース系の満洲人(女真人)が建て、中国を征服した王朝：複合的

満洲人〈北京・マンチュリア〉	：満洲文字満洲語	…八旗に編成(旗人)
モンゴル人〈南北モンゴル・青海〉	：モンゴル文字モンゴル語	…外藩として臣従
チベット人〈チベット・青海〉	：チベット文字チベット語	…ダライラマのもと自治
トルコ系ムスリム〈東トルキスタン〉	：アラビア文字トルコ語	…在地ムスリムを通じ統治
漢人〈旧明領〉	：漢字漢語	…儒教を保護、科挙を継続

☆紫禁城や地方都市はそのまま利用=ハード面では明を継承。使い方に独自性：満城と漢城
 ・集住・分住：領土分封を行わず、首都一帯に集住：八旗が北京内城に集住、漢人は外城に
 ・王府と重臣邸：重臣屋敷と異なり市内に散在 ←→明：王族は各地に住まわされ北京に不在
 ・軍営都市：旗人は兵舎生活、工商業への従事は禁止 →18C～ 旗人の窮乏化 Cf.武士
 ←→外城の漢文化：瑠璃廠の書画骨董、「宣南」=戯曲文化

◎離宮=北京・円明園など：北京近郊の苑囿、清代には皇帝が執務する政治の舞台

熱河・避暑山荘など：チベット仏教寺院や園林を擁し、皇帝がモンゴル王侯らと過す
 =日本に存在しない多民族統合の装置



⇒東アジア的都城とユーラシア的広域統合の複合性

…前者は日本とは異なる類型、後者は構成要素の多様性の面で日本と条件が異なる。

☆世界史から見た近世日本：〈世界に類を見ないほどの中央権力の強力な全国統制〉と〈世界に類を見ないほどの地域権力の自律性〉との両立=「統一された分権体制」

←ふつう統一的な中央集権体制のもとでは地域政体は自律性が弱い。

ふつう地域政体の自立性が強ければ中央権力の統制は及びにくい。ex. 戦国期日本

☆東アジアにおける統治と拠点：物理的構造・構成も政治・社会上の位置づけ・機能も異なる

①統治拠点としては、中韓では困廓都市、近世日本では近世城郭：日本で独自に発達

②統治体制は領主制であって官僚制でないにもかかわらず、強力に中央が統制：核が大名・城

⇒彦根城=それを集約した形で現存：国内で代表的であるだけでなく、世界史的比較にも有用